

保幼小中一貫教育だより



# 豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第7-①号 R1. 11. 1

## 京都大原学院 教育委員会先進校視察研修 **その1** (令和元年10月2日(水))

小中一貫教育の先進的な取組みをされている学校や市町村を視察させていただくことにより、本町の取組みに活かすため、「教育委員の先進校視察」を8月より実施することとしました。今回は「京都大原学院(京都市)」の視察内容をお知らせいたします。

### 《学校紹介—京都大原学院①》

京都市街地の北東15kmに位置する自然豊かな里山に佇む「京都大原学院」、平成21年4月に隣接していた小学校と中学校を一体化し、小中一貫教育校(児童生徒数100名)として設立。「地域とともにある学校=コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域が一体となった特色ある学校づくりを進められています。(現在児童生徒数は72名)



第2回目の視察研修は、10月2日(水)京都市義務教育学校「京都大原学院」を視察させていただきました。その内容を2ページにわたってご紹介いたします。今回は町長、副町長、学校関係者、PTAの方々を含め総勢16名で視察しました。



大原学院の玄関前



温かい木製のベンチのある中庭



大原名産のシソを使ったジュース

(感想抜粋—PTA 役員 小谷様)

印象に残った事柄は、学校と地域の垣根の低さです。学校行事や地域行事のような大きなイベントはもちろんですが、日頃から地域の方々が学校に出入りされ、草引きや授業への参加など非常に密接に関わっておられました。防犯対策などで物理的にも閉鎖的になっている学校施設が多い中、常時開くことができているのは、設立当初からの関わりの中で築かれた信頼関係に基づいているのだと思います。周辺環境など豊能町と似通った要素もあり、学校再配置に取り入れられる事例も多々あったと思います。多数の課題はありますが、豊能町でしかできない教育の実現を期待しています。

(感想抜粋—PTA 役員 上西様)

子どもたちを「地域の宝」として真ん中に置き、学校という枠を超えてとても特色のある教育をされています。「大原探究」「大原提言」「三千院宿泊学習」「観光客を英語で観光案内」「しば漬けづくり」など、他ではなかなか経験できない内容に素晴らしいと思いました。

小規模校だと友達関係が固定化されてしまうことが悪循環に働くのでは?と聞いていましたが、たくさんの人に出会い、一人ひとりの可能性を引き出すことで自信につながり大きな問題はないとのことでした。そして不登校ゼロ。転入前は不登校だった子どもも大原にきてからは、すべて登校できていることには驚きました。



学校の概要説明を受けています



卒業記念として制作された壁画と壁画をプリントしたエコバック



ハワイ大学との交流を掲示

(感想抜粋—東能勢小学校 峯教頭先生)

まずは、校舎内ですれ違う児童・生徒から、「こんにちは。」という気持ちよい挨拶がありました。また、掲示されている写真から、上級生と下級生の良好な関係がうかがえました。そして、児童・生徒の書いた掲示物は、とても丁寧に仕上げられており、学習に向かう意欲の高さを感じました。

その②につづく